

# 第5回さくらピア避難所体験

2013年9月28日(土)~29日(日)

## 実施報告書



①映画と災害体験	…	146名
②夜の防災訓練	…	86名
③宿泊体験・非常食試食	…	41名
④まとめと講評	…	40名
	計	<u>313名</u>

# スケジュール

## 第一部 【映画と災害体験】

28日

### ◇13:00 受付・パック食準備（1階ロビー）



受付で名札を受け取り名前を記入した後、パック食の準備をします。無洗米をお茶、コーヒーなど、お水以外のもの炊いてみましょう。どんな味がするでしょうか？

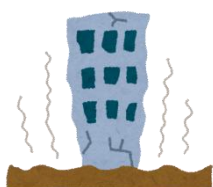
### ◇13:30 映画「逃げ遅れる人々」（3階大会議室）



障害があるということは、災害時には普段以上のハンディとなる。2011年3月11日の東日本大震災、未曾有の大災害の中、障害を持つ人々に何が起きたのか？福島県を中心に、被災した障害者とそこに関わる人々の証言をまとめた。被災地の障害者を取り巻く、さまざまな課題や問題点が浮かび上がる。

制作：東北関東大震災救援本部 時間：74分(字幕付き)

### ◇15:00 煙体験ハウス（体育館） 地震体験車（桜ヶ丘公園）



煙体験ハウスで、火災時の煙の怖さを実感しましょう。地震体験車は震度7の揺れが出ます。どちらも体験してはじめて分かる怖さです。

### 防災グッズいろいろ紹介（体育館）



豊橋防災VCの会さんが、おすすめの防災グッズを紹介します。リサイクルでの手作り品は、きっとみなさんのご自宅でもチャレンジできるものです。また、「体育館展示コーナー」には各社の防災対策用品が紹介されています。新製品もあるので、ぜひご覧ください。

### ◇16:00 できあがったパッククッキングを配布します。

### ◇16:30 解散

## 第二部 【夜の防災訓練】（3階大会議室）

18:00 受付（1階ロビー） 3階大会議室に移動します。  
18:30 来賓あいさつ



### ◇18:35 ちょっと拝見みんなの非常持ち出し袋

お持ちいただいた非常持ち出し袋の中身をチェック！グループごとに分かれて、どんな中身が便利か情報交換しましょう。

### ◇19:05 避難訓練（桜ヶ丘公園へ）

桜ヶ丘公園に避難します。非常放送と職員の指示にしたがって、落ち着いて行動しましょう。夜なので、足元には要注意！

### ◇19:30 初期消火訓練 消火器の使い方を確認しましょう。

### ◇20:00 解散

## 第三部 【宿泊体験・非常食試食】

20:30 受付、夜食配布（1階ロビー）  
受付後、参加者全員の点呼を行い、パンと飲料水を配布します。ここまで参加して疲れた方も、食べて力を溜めましょう。

### ◇21:00 宿泊準備（1階体育館）

参加者みなさんでお互いに相談し、就寝場所を決めましょう。

### ◇22:00 消灯



実際の避難所は人数も多く、冷暖房も効かないかもしれません。そうした生活を思い浮かべながら、一夜を過ごしましょう。

）

29日

### ◇7:00 起床・健康チェック

寝心地はどうだったでしょうか？調子の悪い方がいないか、看護師さんがみなさんの健康状態をチェックします。



### ◇7:30 非常食試食（2階図書談話室）

朝食は非常食を食べます。今回は梅粥と味噌汁です。調理班の方ががんばって作ってくれるので、きっとおいしいはずですよ。

### ◇8:30 館内清掃・片付け 最後に体育館をきれいにしましょう。

## 第四部 【まとめと講評】（3階大会議室）

9：00 受付

### ◇ 9：30 **まとめと講評**



避難所体験に参加して気づいたこと、感じたことを発表しましょう。どんなことでも構いません。みなさんの貴重なご意見をお聞かせください。

講評者： 豊橋市社会福祉協議会事務局長 松井 晴男 氏  
豊橋市役所福祉部福祉政策課主幹 鈴木 登 氏  
豊橋市役所福祉部障害福祉課主査 高橋 伸治 氏

◇ 11：30 解散

## ～ 参加者のみなさんへ ～

みなさん、今年もご参加ありがとうございます。お帰りになりましたら、ぜひご家族、友人、知人、職場に今回の避難所体験のことを報告して、話し合ってください。

さて、今年はさくらピアでも通常運営の中で二度、災害を体験しました。一度目は8月3日(土)午前10時、遠州灘を震源とする震度4の地震です。さくらピアのロビーには、行事参加予定の障害児と保護者、スタッフなど60名ほどがいらっしゃいましたが、放送や声かけ、点検作業等を迅速に行うことができました。訓練の成果が出た、と思いました。

二度目は、先日の台風18号です。東新町の信号は消え、さくらピアは午前7時半～午後1時半まで6時間停電して、電話もパソコンも使えませんでした。そして体育館、ロビー、廊下などが浸水し、職員が半日かかりで水出し作業をしました。市との連絡方法や消防設備の運用のことなど、平時には気が付かない課題がたくさん見つかりました。

被災地の痛みと教訓と避難所体験での気づきをみんなで共有して障害者の防災対策を少しずつ充実させていきましょう。

さくらピア事務長 本田 栄子

## 参加者内訳

障害種別		29日			30日	合計
		①防災交流会	②夜の防災訓練	③宿泊体験	④まとめと講評	
障害者・ 家族（当事者）	身体	28	12	7	5	52
	重身	4	3	1	1	9
	内部	2	1	0	2	5
	聴覚	7	4	0	0	11
	視覚	3	0	0	2	5
	精神	10	2	1	0	13
	知的	8	6	7	2	23
	発達	0	0	0	0	0
	家族	30	10	9	7	56
	<b>小計</b>	<b>92</b>	<b>38</b>	<b>25</b>	<b>19</b>	<b>174</b>
一般	介助	2	0	0	0	2
	ボラ	18	20	2	3	43
	議員	2	4	0	0	6
	民生	4	1	0	0	5
	社協	5	3	3	4	15
	市職員	3	2	2	3	10
	その他	17	13	5	6	41
	さくらピア	3	5	4	5	17
	<b>小計</b>	<b>54</b>	<b>48</b>	<b>16</b>	<b>21</b>	<b>139</b>
<b>合計</b>	<b>146</b>	<b>86</b>	<b>41</b>	<b>40</b>	<b>313</b>	

総参加者数313名、障害当事者174名。障害当事者の参加割合は55.6%で、昨年（294名、51.7%）を上回った。避難所体験報告書の発行、新聞記事への掲載等の反響から東三河地域での認知度も増してきている。広報活動に加え、内容の発展・充実を図ることで、今後もこの傾向が期待できる。また、今年は豊橋市から避難所要員1名が派遣され、公務として受付等の業務を行ったことを特筆する。

障害種別で昨年と比較すると、課題だった精神障害者の参加が13名（昨年3名）となり、家族の参加も56名（昨年36名）に増加した。身体、内部、知的障害者ともに微増したが、聴覚障害者は行事が重なり、減少した（昨年34名）。発達障害者の参加は例年少なく、今年はなかった。視覚障害等も含め、参加の伸びない障害種別の方々へ、より丁寧な案内をする必要がある。

内容別には、1日目午前の部（①防災交流会）で40名以上増加した。映画や民間企業の協力を得た防災グッズ展示など、新要素が目を引いた。②～④は昨年とほぼ同数だった。③宿泊体験は毎年同様の内容であるが、固定メンバーに加え、初参加の方が15名いた。宿泊者の増加とともに、宿泊者主体の準備・片付け等の運営訓練を兼ねることで、より実践的なものとしていきたい。



# 参加者アンケート①

## 映画「逃げ遅れる人々」

- 映画は切実に怖さを感じました。
- 映画を鑑賞して、本当に心が痛みました。
- 被災地の状況がよく伝わる、いい映画でした。
- 映画は、支援する側が何をしたらいいか考えさせられた。自分一人では何もできないけれど、話を聞くだけでもいいという言葉に、それならできるかなと思いました。
- 東北のみなさんの変わらない生活の大変さが伝わりました。自分の生活を見直したいと思います。
- 映画が長かったです。もう少しまとまった、短いものの方が見やすいと思います。
- 映画の上映時間が長かったので、もう少し短い方がいいと思います。支援する方の気持ちも分かりますし、被災された方のストレスなど、見ていてつらかったです。
- 上映時間が長く、会場内でおしゃべりする声が気になりました。みなさん暑い会場でもよく我慢されたと思います。上映内容はよかったです。
- 後方に座りましたが、音が聞きにくく、室内が暑くて集中できませんでした。
- 映画を見ましたが、後方は画面の文字が座っている人の頭で見えませんでした。説明しているときの手話も全く見えませんでした。
- スクリーンが見にくいというえ、音量が低くて聞こえなかったです。時間も長かったです。
- 聞こえなかったので、映画の音量はもう少し大きいといいと思います。
- 映画の音量が小さく、聞き取れませんでした。また、部屋が暑くて苦しかったです。

## 煙体験ハウス・地震体験車

- 煙体験ハウスに2人で入りましたが、前の人が見えなかったです。実際ならパニックになりそう。
- 煙体験ははじめてで、怖かったです。煙は目が痛くなったり、呼吸ができなくなるのが怖いと思っていましたが、「前が見えない怖さ」もあることに気がきました。
- 煙の中に入っているときは前が見えないし、なんか臭いし、大変だなんて思いました。
- 煙体験ハウスははじめての経験でした。何も見えない恐怖を体験できました。
- 煙体験、地震体験ともにダウン症の姉妹と体験しました。妹の顔色を見て、もっと訓練が必要だと思いました。勉強になります。
- 震度7はとても揺れることが分かりました。面白かったけど、怖かったです。

## 参加者アンケート②

### 防災グッズいろいろ紹介

- 防災グッズを自分で作ってみたいと思いました。
- 今年も防災グッズが参考になりました。
- 新しい防災グッズをこれからも紹介してほしいです。
- いろいろな防災グッズを見たり、作り方を学ぶことができてよかったです。
- ダンボールベッドに感心しました。
- JINRIKI を車いすに付けられたので、楽しかったです。
- 避難所のテントみたいなものを見て、ぜひ用意したいと思いました。
- 災害用テントが障害者自身でも出入りできるものだったので、これなら安心して避難生活ができると思いました。
- パッククッキングは新しい発見でした。工夫すればいろんな食事ができることが分かりました。
- 展示された防災グッズは、ここで買えたらよかったです。
- グッズはここで買えるのかと思いましたが、見本を見るだけだったので、残念でした。

### ちょっと拝見みんなの非常持ち出し袋

- 非常持ち出し袋については、今日のために今朝から準備をしました。必要だと分かってもなかなか用意できずにいたので、いい機会になってとてもよかったです。
- 非常持ち出し袋はまだ用意していないので、今日の話参考に用意します。
- 非常持ち出し袋の説明のお話が大変参考になりました。
- 非常持ち出し袋は、まだまだ足りないものがあることがよく分かりました。
- 自分の非常持ち出し袋を点検できてよかった。帰ったら5点セットを作ります。
- 非常持ち出し袋の説明が分かりやすかったです。
- 持ち出し袋の中の優先順位が分かり、とても参考になりました。
- 非常持ち出し袋の用意をしていなかったなので、訓練が終わったら準備をしようと思いました。

## 参加者アンケート③

### 避難訓練・初期消火訓練

- 夜の訓練は真っ暗で、緊張感を持って取り組みました。
- 避難訓練は再三した方がいいと思います。
- 非常階段が明るくてよかったです。
- 夜の避難訓練は去年も体験したので、今回は落ち着いてできたと思います。やはり訓練は大事だと思いました。
- 夜の訓練ははじめてでした。会館なのでよかったけれど、夜、自宅で一人の場合はいろんなところにぶつかりそうで、少々不安かも…。
- 避難訓練では階段での避難が親子ともども不安でしたが、車いすでも利用できる器具があり安心しました。しかし、実際に自分がすべてやらなくてはいけない状況では無理だと思います。何度も訓練が必要だと実感しました。
- スムーズに避難できてよかったです。
- パトライト後の音声案内が小さかったので、よく聞こえるようにしていただけたらありがたいです。
- 公園に照明があってよかったです。
- 照明車をはじめて見ることができました。ただし、被災時の交通網の不便により、車両自体が移動できなくなる環境も考えてしまいました。
- 避難訓練では回を重ねるごとにスムーズな感じで、階段を降りるのも早くなりました。消火訓練でははじめて消火器をつかうことができました。
- 「消火器を持って近くに行きながら、「火事だ」と大きな声を出してください」ということですが、聾者には無理なので、他にいい方法を何か考える必要があると思います。
- 消火器は学校でもやりましたが、やはり重たいです。
- 消火訓練では、ホースを外さずレバーを押して、ズボンを濡らしてしまいました。勉強になりました。
- 飛び入りの一部参加でしたが、消火器を使うところを見せていただきました。急に使用すると慌てると思うのでいいと思いました。来年はぜひ、泊まりの体験もしてみたいと思います。
- イベントは町内自治会長に連絡するといいようです。近隣対応してもらえる？
- ある人（周辺住民）が「声をかけてくれれば」と言っていたので、公園での訓練を近隣の方にお知らせした方がいいのではと思いました。すでにやってらっしゃるのかもしれませんが。



## 参加者アンケート④

### 宿泊体験と非常食試食①

- マットの上で寝ましたが、クッションがよく朝まで眠れました。
- いざというときには、障害のない人も自分のことで精いっぱいになってしまい、手を貸してもらえないときもあるので、できるかぎり自分で自分のことをするためにも、このような体験はとても貴重で、必要なことだと思います。もっとたくさんの方に参加していただき、いざというときに備えておいてほしいです。宿泊のとき、気候によって寒暖や乾燥への備えができるといいと思いました。薬を飲んでいる方は、持参することを忘れない工夫もいると思います。• マットで寝かせてもらいましたが、なかなか眠れず、いい経験でした。非常食もこういうものだと思えば食べやすいと思います。
- 去年と比べると寒かったです。夜中に赤ちゃんの泣き声で目が覚めたり、寝づらかったです。味噌汁はおいしかったです。小中学生の宿泊体験があればいいと思いました。
- 非常用の水がおいしくなかったです。
- 空気が乾燥していたので、ほこりが気になる方なども含めて、マスクが必要だと思いました。子どもの薬を飲ませ忘れることもあると感じました。子どもたちは意外と寝られたようです。マットレス、まくらは携帯用があるといいと思いました。また来年も参加したいです。健常の方にも声掛けした方がいいと思います。調理のときなども含めて、普段と違うし、スムーズにできないこともあるので、他の方とコミュニケーションを取りながらすることは、大変ですが、大事なことだと思います。
- いつもながら泊まる人が少なく、快適で風もさわやか、湿度がなくしっかりと眠れました。朝食では、もともとおかゆが好きではないのですが、昨年のおかゆよりご飯という感じがしなくておいしくなかったです。お味噌汁は具たくさんでおいしかったです。おかわりをしました。
- 今年は眠りが浅く、寝た感じがあまりしなかったです。やはり小さな音でも響くのと、外からの車の音が気になりました。季節としてはとてもよく、風もどこからか入ってきてさわやかでした。泊まる人も少ないので、こんなにいい環境では訓練にならないと感じましたが、それでも体も痛くなるしノドも変になり、長期の避難は大変なことだと、いつもながら痛感しました。非常食のおかゆは、昨年の方がおいしかったです。でも温かくてやはりホッとします。
- 宿泊体験では、ファミリーテントで寝させてもらいました。子ども（8か月）が夜中に泣いたときに、授乳をしていたので、衝立てがあって助かりました。今回は3人（こども2人、おとな1人）で寝ましたが、あの空間に家族4～5人が入ると、寝返りもできないと思います。非常食については、離乳食を食べる息子には、もう少し自分自身が工夫して食べさせる必要があると思います。今回は梅が付いていないおかゆと、豆腐と、里芋を食べてくれました。葉物野菜はもっと小さく刻まないといけないのですが、面倒だったのでやりませんでした。

## 宿泊体験と非常食試食②

- はじめてだったので、眠れませんでした。
- 体育館はやや寒かったが、ぐっすり眠れました。
- とてもよい体験ができました。ありがとうございます。宿泊体験ははじめてだったので、はじめて会った人たちと寝ることの大変さが分かりました。
- 簡易ベッドや仮設トイレが参考になりました。
- 4回目の参加なので、慣れてきたのでしょうか、よく眠ることができました。経験することは大事だと思います。非常食もおいしかったです。
- ダンボールベッドをはじめて体験しましたが、床の冷たさは全くなく、立ち上がりも容易でした。非常食の梅がゆはおいしくなかったけれど、おなか一杯になりました。味噌汁は具たくさんでおいしかったです。体育館の中は落ち着いた雰囲気、まあまあ眠れました。
- 夜中は冷え込み、1～2回目が覚めました。朝食は、おかゆ、味噌汁ともにおいしかったです。非常用水はあまりおいしくなかったです。
- 館内パトツアーで消火器のチェックをしましたが、引き込み方式の消火器なので表示板が横から見えなくて困りました。いざというときに見つけにくいので、左右通路から見える高い位置に、消火器の位置表示板を改善してください(各室名の表示方式のように)。

## そのほか

- スタッフのみなさま、ご苦労様でした。
- 災害から自分を守るために、いい参考になりました。
- 来年も参加したいと思います。いい体験になりました。
- 災害を身近に感じることができました。
- 年に一度、開催してもらえると意識が高まっていいと思います。
- 大変楽しく勉強させていただきました。
- とてもいい体験ができました。参考になることがたくさんあり、よかったです。
- 毎回避難所体験に参加して、自分なりの準備ができてきたと思います。
- 以前よりも参加者が増えてきて、よかったです。
- いろいろ体験できてよかったです。
- いろいろな企画でマンネリ化しなくてよかったですと思います。
- 参加者が大勢いて楽しかったです。
- 体験はとても大切だと思います。いつ起きるか分からない災害に備えたいと、切に思いました。

# まとめと講評 議事録

本田（さくらピア事務長）

おはようございます。二日間の訓練も、最後のプログラムを迎えました。毎年講評をいただいておりますが、その前に、第一部からいろいろと振り返って参加者のみなさんから意見を伺いたいと思います。まずは、映画を見られた方からお願いします。

中神（豊橋市肢体不自由児(者)父母の会）

映画の中にも出ておりましたけれども、私が強く感じたのは、周りの人との「つながり」が非常に大切だな、ということです。民生委員との関係だけではなく、例えば日常でのあいさつといったような、近隣の方との目の見える関係が必要です。また、「備えあれば憂いなし」という言葉がありますが、備蓄品は一週間ぐらい必要かなと思います。ほかにも、車のガソリンは半分になったらいれておく、車内には必要なものを詰めたリュックサックを備えておくなど、いろいろあると思います。

そして、急な災害がやってきたときの「状況判断」の重要さです。大したことはない、と思って行動しなかった方が亡くなられたケースが多いようです。どうしても状況を簡単に考えてしまいがちですが、状況判断を誤ると命を落としてしまうことにもなりかねません。

また、重度障害児の保護者の方にとっては、救援物資の調達の際などに「並んでくれるボランティア」が必要です。目の離せないお子さんを抱える方にとって、これは痛切な願いだと思います。もちろん、人に頼りきりというわけではなくて、「自分の命は自分で守り、家族の命は家族で守る」、そういう姿勢が一番大事なことだと考えています。

本田

いまおっしゃられたように、今回の避難所体験には、重度障害の車いすの方にたくさんご参加いただきました。参加者の方々も、その様子がよくお分かりになったと思います。

鈴木（豊橋手をつなぐ育成会）

私は、映画を見た後、とにかく切ないなというだけで、それ以上何も言えない気持ちが残りました。家に帰ってから考えたことは、私自身、知的障害の子ども之母ですが、子ども自ら助けを求めて声を上げることはできません。しかし映画にはそう



したことが取り上げられていませんでした。

家族が動けない状況で、子どもひとりだけになる場合には、中神さんがおっしゃったように地域とのつながりが必要だと思います。この映画はつらい気持ちになりますが、これこそが現実なので、ひとりでも多くの人に見てほしいと思います。今後、いろいろな機会で上映してほしいです。

本田

ここで松井さんにお聞きしたいのですが、「並んでくれるボランティア」をコーディネートする場合、社会福祉協議会ではどのように動くのでしょうか？

松井（豊橋市社会福祉協議会事務局長）

大きな災害が発生した場合に、ボランティアセンターを立ち上げる形でボランティアを提供する仕組みになっています。「避難所を含めてボランティアをお願いしたい」ということであれば、例えば、物資調達のために何名並んでほしい、という具体的な要望にマッチングしてボランティアを派遣することになります。しかし現実問題として、ボランティアの派遣所として機能する福祉センターは最大で5か所なので、豊橋市内の70か所の第一避難所を網羅するというのはなかなか難しいと考えています。

第一次的には、みなさんに声を上げてもらわないといけません。ボランティアセンターからボランティアが行きつくまでに3、4日かかるため、タイムラグがあります。そこを埋めてくれるのは、やはり身近な方々です。避難所の運営は自治会が中心となるので、そこで自分たちのことを話してもらう必要があります。

荒木（豊橋手をつなぐ育成会）

映画を見て、現実ってこうなんだと、もらい泣きして胸が詰まる思いがしました。しかし、さあ自分たちがどうするかという場合に、子どもと、親としての私のことを考えると、どうなるんだろうという不安があります。息子は言葉を持ちませんから、家族がいないとどうなるか分かりません。やはり近所の人など、声をかけてくれる人を増やしていくしかないんだなあと思います。また、息子がどういう人か、他人が見て分かるものを身に付けさせないといけないと感じています。災害の予測はつかないですが、この子が一人になる場合をシミュレーションしながら訓練しなければならないと思っています。

昼の部では、パッククッキングが新鮮で、これでパンや焼きそばができるんだと感心しました。工夫すれば暖かいものが食





べられるのはうれしいことだと思います。防災グッズも、今まで見たことしかなかったので、箱から出して触れたのがよかったです。煙体験ハウスは、息子は怖がっていませんでした。息子のような場合は、現状だけで判断してしまうので、私たちが予想する反応と全然違うのだと思います。

本田

映画の内容が切ないので、防災グッズ等の楽しい企画を用意しました。豊川からお越しの方々にも意見を伺いたと思います。

メンタルネット豊川職員

私は精神障害者施設に勤めています。今回の映画は、同じものを豊川でもダイジェストで放送しました。全編をずっと見ていく中ででてきた、「東海大地震はひとつではない」という言葉がとても印象に残りました。煙体験もはじめてで、こういう体験はとても必要だな、すこしは役に立つかなと思いました。



安永（豊橋手話通訳学習者の会）

今回はじめて、さくらピアで一泊させていただきました。私は高齢者施設で働いていて、段ボールベッドに興味があったので使ってみました。これは高さを調整できるし、床の冷たさを感じません。そのおかげか、なかなか眠れないという話を聞いていましたが、割と眠れました。昨日の夜は穏やかでしたが、あそこが満員になった場合はそうはいきません。そういう状況で自分に何ができるか、考えたいと思いました。



後藤（豊橋身体障害者協会）

昨年の宿泊体験では、床にダンボールを敷いて寝ましたが、今回は段ボールベッドを使いました。下肢障害にとっては最適のベッドだと思います。しかし避難所生活は、それでも2、3日が限度かもしれません。

映画の中では多数の方が体育館で寝ていたようなので、そういう実際の現場を見てみたいと思いました。ベッドがなく、車の中で一週間寝ているという話もありました。そうした問題を改善するのは、本当は簡単なことだと思います。



本田

段ボールベッドは、障害者防災の研修で大阪に行ったときに、大阪の堺市がレンゴーと提携しているという話を聞きました。そこで豊橋のレンゴーに協力依頼を出したら、10個もいただくことになり、とてもありがたかったです。市のほうでは、企

業との提携はあるのでしょうか？

鈴木登（豊橋市福祉政策課）

たとえば、緊急時における食糧の優先調達があります。食料や薬といったものを、スーパーなどから優先的に支給してもらえます。校区との連携体制もあります。しかし、障害者のためのベッドや車いすの支給は定められていません。そうした要請があることは防災危機管理課に伝えておきたいと思います。

大原（豊橋市肢体不自由児(者)父母の会）

防災ボランティアコーディネーターの会さんの、防災グッズ紹介がとてもよかったです。シーンズを使って防災ずきんが簡単にできたり、身近なものを使って作れるというのがとてもいいと思いました。教室を実施するそうなので、それにも参加したいと思いました。

宿泊体験では、なかなか眠れませんでした。はじめての経験だったので、夜中の2時まで起きていました。一号線が近いので車の音がよく聞こえるし、体育館の中は音がよく響きます。こういうところで寝るのは大変だなと感じました。十分恵まれている環境のはずなのにこうでしたから、実際の避難所だと、完全に眠れないと思います。訓練の回数を重ねて、慣れていくしかないと感じました。

本田

ご家族で参加していただくと、他の障害者の状況も分かります。お友達もたくさん誘っていただき、今後も参加してください。

メンタルネット豊川職員

私も豊川からの参加です。夜の防災訓練と宿泊体験に参加させていただきました。宿泊体験は私もはじめての経験でした。自助、共助、公助といった役割分担がありますが、自分でできることをあらかじめ準備して、公助に期待しすぎないことの重要性をあらためて感じました。

また、地域との連携は、すぐにできることではありません。日頃からやっておかないと、「やってくれない、助けてくれない」といった感情が湧いてしまいます。日頃から関わっていく姿勢で取り組まなければならないと思います。

塩田（ボランティア、手話サークル竹の子会）

「並んでくれるボラさん」についてですが、私の妹は知的障害で、肢体不自由のお友達とディズニーランドに行ったときに、





優先的に誘導してくれました。水や食料の給付のときも優先してもらえる、それが当たり前になるといいと思いました。

今回は2人の子どもとともに、最初の映画から全部参加しました。パッククッキングで作ったごはんは、子どもたちはあまり食べてくれなかったのが、結局わたしが3袋食べることになりました。離乳食や介護食にも配慮が必要なんだと感じました。しかし自分からは声が出せない、出しにくいという人が多いでしょうから、他の人からの声掛けも大事だと思います。

体育館宿泊では、ファミリースペースのテントの中で寝ました。3人だけだったのよかったです。4、5人いたら狭いなと思います。しかし衝立てがあったので、授乳等は楽にすみえました。朝食は、子どもに梅が入っていないおかゆと豆腐、里芋を取り分けてあげました。

本田

テントは車いすの方でも入れる新製品だそうです。車いすのお子さんを持つ参加者の方々からも、これが欲しいねという意見がありました。あのようなものは、福祉避難所にどうでしょうか？



鈴木（豊橋市福祉政策課）

値段的に少し高価ですね。しかし、福祉避難所としてというよりも、さくらピアとして必要ということであれば、障害福祉課に要請することができると思います。

本田

今年になって、さくらピアが福祉避難所として開設されたとき、市から派遣される避難所要員が決まりました。今回協力していただいた高橋主査がその一人です。

高橋（豊橋市障害福祉課）

私は旭校区に住んでいます。今後、福祉避難所が開設される場合、福祉避難所スタッフとしてみなさんのサポートをさせていただきます。そのときはよろしくお願いします。



前田（豊橋身体障害者協会）

映画については、まだまだ掘り下げが少ないと思いました。日本障害フォーラムに、発災2～3週間後の現地避難所の様子についてのレポートがあります。その内容は、「とにかく避難所に障害者がいない、作業所や事業所の中にはいるようだが、どこに行ったんだ」ということでした。避難所から出て行ってくれと言われた障害者の話もあります。障害等の都合で家にい

る人に食料をあげられないということも、納得しにくい話です。こういった点についても触れてほしかったです。

さくらピア避難所体験はこれで5回目です。みなさんに誤解しないでいただきたいことは、実際に福祉避難所が開かれた時、今までここで経験してきたようなことはあり得ないということです。ここでは職員の方々が手取り足取り親切にやってくれますが、実際には、もっと自分たちでやらなければならないことがたくさんあるはずですよ。

この前の岩田小学校での豊橋市防災訓練に豊障連が参加しましたが、役員の中で「障害者としてかまってくれなかった」と言っていた人がいました。しかし実際の避難所では、障害者だからといって誰もかまってくれません。私は聴覚障害者にも言いましたが、「実際の避難所には要約筆記も手話通訳もない」。実際そうなのですから、訓練の場合は、そこに配慮がないことを憂うのではなく、それが無い状況でどうしていけばいいかを考えなければなりません。障害者自身が考えて行動しなければならない、ということです。

今回の避難所体験のプログラムに、「避難所における共通理解ルール」が参考資料として付いています。その中に、「避難所のみなさんは、当番などを通じて自主的に避難所運営に参加してください。」という文面がありますが、これは本当に重要なことです。自分の障害だけでなく、他の障害者に対して何ができるか、そういうことを考えなければならないと考えています。

## 本田

避難所では「おもてなし」はできません。避難所体験では、はじめの頃はお味噌汁や宿泊の準備もすべてこちらでやりましたが、最近はいろいろと参加者の方をお願いしています。今回は、近所のおばさんが朝ごはんの準備にきてくださって、そういう近所の方のお気持ちもありがたいなと思いました。

## 柘植（テニスサークル鈴 RUN）

私は視覚障害者です。一人で住んでいますが、大きな災害のときは本当に災害弱者で、周りの人に助けを求めるしかありません。みなさんがおっしゃられるように、地域の人や職場の方とのコミュニケーションが必要です。できるだけ理解してもらえるように声を出していかなければいけないと思っています。

「自分でできることを自分でする」のは当たり前のことですが、どうしても必要な配慮としては、まず「夜のトイレ」です。避難所では、出口の近くにしてもらいたいです。また、文字情報だけでは分からないので、音声での放送が必要です。この2





点を避難所に期待したいと考えています。

枡谷（豊橋盲人福祉協会）

私も視覚障害者です。今回の避難所体験はこれ以外に何も参加していません。目が見えないと夜中に行動できないので、夜の防災訓練には参加できません。ですから、訓練は昼に実施してほしいです。

本田

さくらピアでは避難所体験のほかに、冬にも防災訓練を行っています。そちらは昼間に行っているため、ぜひそちらにご参加ください。



清水（豊橋身体障害者協会）

われわれ豊身協は、豊障連のイベントにはできるだけ参加するようにと、避難所体験にも毎年多くの役員が参加しています。毎回、メンバー的に変わりはありませんが、参加することに意義があると思っています。

私は毎回、体育館に宿泊していますが、今回は環境が大変よかったです。気温も気候もよくて、夜中はほんとに静かだったので、今までとは違うなあと感じました。今までの4回と比較して、私としては最高の環境で泊まれたという感じです。



本田

何回も宿泊されている方は、安心感も出てきたのかなと思います。以前は、夜中に大声を上げたり、暑くてひきつけをおこした方もいらっしゃいました。今回は、義足を置いて寝ている方々の姿が印象的で、知らない方はびっくりすると思いました。いろんなことが分かってよかったです。それでは、全体の講評をお願いします。



高橋（豊橋市障害福祉課）

パッククッキングは私も担当させていただきましたが、珈琲で作ったものは「きなごはん」のようでとてもおいしかったです。こんな食べ方があるんだという知識をいただきました。また、宿泊体験の参加者は40名ほどだったそうですが、豊川からお越しの方もいられるように、いろいろな地域に避難所体験が知れ渡ってきているなと感じました。これから回数を重ねていくうちに、さらに発展していくことを期待しています。



鈴木登（豊橋市福祉政策課）

防災グッズの展示会では、実際に触ってみることで使い勝手

が分かりますし、興味もわいてきたことと思います。ちなみに、1回目の避難所体験で支給したプライベート間仕切りは、1セットで20区画作れます。段ボールベッドなどと組み合わせるとより便利です。

いろいろ経験していただくことで、身の回りの整理に役立ててください。たとえば冷蔵庫の中を見てください。備蓄品としては、けっこうなものが入っているはずですが、そこにボンベなどを用意しておけば、ガスが止まっても水を沸かすことができます。ご自宅に帰った後は、身の回りのものをチェックしてもらいたいと思います。



松井（豊橋市社会福祉協議会事務局長）

みなさん、お疲れ様です。私も第1回目から講評をさせていただいています。今回みなさんから出された意見の多く、例えば「地域とのつながり」などは、以前から言われ続けていることです。しかし、それを実際に日々の中で実現できるかどうかとなると難しい。そこをどれだけ「ちゃんとしておかないと」と思えるかが重要です。思っている人は、災害が起こった後の生活がちょっといい、思っていない人は昨日の映画のように悪くなってしまいます。災害が起きる前からの問題です。障害者だけの問題ではありません。私たちは高齢者の支援も行っていきますが、問題が生じるケースは、周りとのつながりがなく孤立している、そういうケースがほとんどです。周りからの援助も必要ですが、自分から地域に参加していく姿勢が重要です。



中神さんがおっしゃっていたように、「自分の命は自分で守る」ことが基本です。そうでないと次の活動ができません。ケガなく生き延びることが本当に大切で、そのために情報を入れておく必要があります。さくらピアでの避難所体験は、みなさんが言われたように、訓練としてはいい環境なのかもしれませんが、情報収集としてとても有効だと思います。

また、社協ではパートや職員に対して、災害発生時に家族のケガがない状況で、いつ職場に出てこられるかというアンケートを取っています。74%ぐらいが翌日、84%ぐらいが2日目という数値が出ていますが、実際にはもっと落ちることは明確です。



最後に思うのは、障害があることの不便さ、それを本人が周りに伝えられるかが分かれ目です。周りに分かってもらえるための努力をすること、それが第一歩だと思います。社協は、年間150日ほどのボランティア講座を開催していますが、参加された方々には必ず、「ボランティアとして活動しない場合でも、あなたたちの避難所が開設された時には、そこで活躍



してほしい」と話しています。そうした方々が実際にどの程度機能するかは分かりませんが、いつ動くのかといえば、みなさんの不便を彼らに伝えたときです。この機会に、自分自身に甘えているということではなくて、自分の困ったことを伝える、そういう態度を培ってほしいと思います。

本田

職員の出席調査はさくらピアでも行いたいと思います。さくらピアでは、勤務が2名しかいない場合も多いです。有事には、豊障連の役員や、普段利用している方々の協力を得ることになると思います。さくらピア避難所体験は、もし職員がいない場合でも、参加者のみなさんが自発的に行動できるようになることを願って企画しています。最後に、豊障連会長の山下さん、お願いします。



山下（豊橋障害者(児)団体連合協議会会長）

みなさん、2日間おつかれさまでした。映画の中では「使えないスロープ」などがでていましたが、これが実際の状況なのだろうと思います。また、東日本の場合は地震のみならず津波もあったので、東三河の場合はどうなるか想像がつきにくいと思います。



一歩引いて、みなさんの備品や備えがどうなっているかを考えてみてください。きっと足りないものがたくさん出てくると思います。今回の避難所訓練もそうでした。夜の防災訓練では、非常放送の音が小さくて聞き取りづらかったです。モニター用テレビも、白くぼけて何が書いてあるかわかりませんでした。階段避難具は、タイヤが思ったより小さくて、点字ブロックすら乗り越えられないぐらいでした。いい製品ですが、まだまだ改良の余地はあるようです。



そして、松井さんの話にもありましたが、「あれやって、これやって」ではない、「自分のニーズを正確に伝える練習」がぜひとも必要だと思いました。今後、さくらピア避難所体験にそうした要素を組み入れていけば、参加された方は、より災害に強い人間になれると思います。

今回まで5回、避難所体験を行ってきましたが、やればやるほど課題が出てきて、それをカバーしていくという道のりです。それをどこまでできるかは分かりませんが、1回目よりも課題に「気づける」ようになってきた、それだけでも価値があると思います。これからも引き続き参加してください。

普段と違う生活で、体も疲れたと思います。今回は本当にありがとうございました。

# 考 察

さくらピア事務長 本田 栄子

## <準備>

他県へ防災研修に行ったとき、「防災訓練の時、企業に現物協賛してもらうことで理解を広めるきっかけとなる」と聞き、実践した。また、市内で他団体が開催した防災の行事に出席して、国土交通省の照明車や防災グッズ業者などを参考にした。

連携を具現化するためには、書類を作り足を運び、また仲介をしてくれる人の存在など、さまざまな準備を経なければならない。さくらピア避難所体験を説明するために、今年4月に発行した冊子「さくらピア避難所体験の取り組み」が大変効果的だった。



## <パッククッキング>

### 《受 付》

今回はじめて、豊橋市の避難所要員が職務で一名参加してくれた。

お茶、コーヒー、トマトジュースで炊飯（各参加者が体験）

### 《コーナー》

蒸しパン（試食用）…ホットケーキミックス（600g×3袋）、水

焼きそば（展示用）…ソース付焼きそば3人前×3袋、カット野菜2袋、缶詰焼き鶏

カレー（展示用）…じゃがいも、にんじん、玉ねぎ、カレー粉、缶詰シーチキン

- 受付での炊飯、準備中の取り扱いで、袋に穴があいてしまったのか、水分がもれてしまった。スタッフが臨機応変な対応ができたので、大きな混雑にはならなかった。
- 応急措置や点検で手間がかかってしまった。
- 見聞きしても自分では挑戦しにくいのが、大勢で楽しく試すことができ、好評だった。
- 受付で参加者自身が取り組んだので、体育館のコーナーでは関心を強く持って説明を聞く方が多かった。
- コーナーでは試食ができたこと、他のメニューに応用できることが示せてよかった。
- 書籍の紹介もあったので、参考に購入したいとメモをしていく人が複数いた。
- 蒸しパンは、調理してすぐ食べればおいしく食べることができたが、袋のままおき、時間が経ってから食べると、ふっくら感がなくべたっとしておいしくなかった。

### ※配布物

- 当日資料      • 名札      • 防災カード（SALA）      • 携帯コロコロ等（ニトムズ）
- パッククッキング食（サン・カンパニー（コーヒー））      • ポケットティッシュ（蒲郡信用金庫）
- パン（善意銀行）      • 飲料水（コカ・コーラ）      • 非常用飲料水      • 梅がゆ





### <映画鑑賞>

「逃げ遅れる人々」というショッキングなタイトルで注目を集め、参加者が多かった。解決の糸口の見えない課題もあり、当事者にとっては残酷な厳しい場面も多々あったが、愛知では風化しつつある東北の現実が良く描かれていた。事前に試写会を開催して、役員や市の方に見ていただいたことも宣伝効果があった。

### <煙体験ハウス・起震車、防災グッズ紹介>

映画が暗い内容なので、あとは自由に体験できる企画にした。中と外に展示が分かれて少しバラツキもあったので、人の動線をもう少し工夫できればいいかなと思った。今回は車いすの子どもを連れた保護者の姿も多く、煙体験ハウスやファミリーテントに人気が集まっていた。



### <夜の防災訓練>

今回は階段に電気を点けたため、昨年より少し早く避難が終了した。国土交通省の照明車がきてくれたので、足元も明るく訓練がしやすかった。今回は、イーバックチェアに障害児を乗せて避難した。階段はよかったが、歩道は移動しにくいことなどが分かった。

### <宿泊体験>

ダンボールベッドが大好評だった。毎年泊まっている人は、手際よく就寝準備ができた。今回は業者さんがファミリーテントを貸してくれたので、小さな子がいる家族は授乳時に役立った。高齢の母親を連れた親子は、和室で体験した。夜、少し時間が余ったので何か話合いがしたかったという意見もいただいた。来年度考えたい。



### <朝食>

みそ汁の材料を農協から頂いた。朝の準備は全て宿泊者にやってもらい、職員は手を出さなくても仕事が進むようになった。知的障害者も、宿泊体験を重ねると食事の手伝いもスムーズにできるようになってきた。

## ＜まとめと講評＞

年齢や障害種別、さまざまな立場から感想を聞いた。訓練をしてみてもはじめてわかる会館管理や避難時の危険箇所、道具の不具合など、それぞれの気づきを聞くことができた。災害時の障害者ニーズを誰にどう伝えれば現場の解決につなげていけるのかも考えて行きたい。



## ＜課題と今後に向けて＞

連携とは何か、啓発とは何か。教訓を活かすとは具体的に何をすればいいのか。

今回は、はじめて企業の展示参加をお願いした。どの企業も普通の一般大衆向けの製品開発が主であり、福祉専門業者以外の企業人は障害者に関わることなく暮らしている人がほとんどである。そこに悪意はなくても、知らないためにバリアを作る。障害当事者側から発信しないと現状のまま変わらないのである。

国が定める障害者基本計画の一文に「社会的な障壁を除去するため、政府が取り組むべき障害者施策」という言葉がある。しかし、およそ災害時に障害者を襲う障壁は、行政一方向から除去できるものなど無きに等しい。障害当事者側からの発信、自助努力、問題意識の向上と行政側の社会施策の充実の双方からの取り組みにより「障壁」は低く、あるいは薄く越えやすいものになっていく。

さくらピアから避難所体験の発信は5年を経過した。参加者と関係者への報告を中心に行ってきたが、第三者への発信はまだまだ始まったばかりで、不十分であることを認識し、次回以降に対策を立てていきたい。

### ★魅力あるイベントづくり

5回目になり、企画側としては動き方が分かってきたので、今後は参加者の動きが自発的になるような内容を考える必要がある。たとえば、「グループ対抗非常食準備ゲーム」、「ダンボールベッド組み立て体験」など、先進地で実施している事例を障害者でもできるようにアレンジしながら、レクリエーション的な要素を取り入れる方法を試してみたい。また、企業出展は好評だったので来年度も実施したい。

### ★福祉避難所とは何か？誰が運営するのか

病院や施設のような職員数もなく、校区ではないので組長も役員もいない。ではさくらピアが開設されたら指揮を執るのは誰か。市の福祉避難所要員が正式に決まったので、開設シミュレーションをして課題を掘り下げていく。

### ★障害者の災害時支援ニーズを具体的に多くの市民に伝える工夫

障害当事者から出たニーズを、校区住民やボランティア、行政などに実感的に伝えていく方法を模索し実行していく。

### ★指定管理者の役割としては福祉避難所開設時の業務範囲は明確に記されていない

障害者の防災施策は危機管理課、福祉政策課の一般市民向けの防災施策の中に織り込まれていくのが本来あるべき形ではないだろうか。貸し館形式の会館の、効率的かつ障害者に利便性が高い避難所運営はどのような形がいいのか、整理しながら、行政との協働の制度を構築していけるといいと思う。



# 災害時の備え 障害者も

## 豊橋 夜間避難訓練や宿泊体験



「さくらピア」から近くの公園まで避難する参加者ら＝豊橋市内で

豊橋市東新町の市障害者福祉会館「さくらピア」で九月二十八、二十九の両日、障害者や地域住民が参加する避難訓練があった。夜間訓練や宿泊体験もあり、延べ三百人が災害時の動きを確認した。

「さくらピア」を運営する豊橋障害者（児）団体で、近くの公園に避難する訓練をした。四十人は会館で宿泊体験。知的障害者と家族らでつくる豊橋市手をつなぐ育成会の荒木登喜子会長（左）は「避難所生活が合わない場合、どのような対策が必要かを考える場になりたい。今年はみんな落ち着いてい」と話す。

「さくらピア」の本田栄子事務局長は「興味を持つ必要はない。年に一度ではない。日常的に災害について考えることが大切」と振り返った。

（中山梓）

↑ 2013年10月1日 中日新聞

# 助け合いの心で身を守ろう

## 豊橋の「さくらピア」で避難所体験

# 震災などに備え訓練や宿泊

28日、「避難所体験」が開かれた。29日までの2日間、障害当事者や家族、行政・福祉関係者が避難訓練や宿泊体験など行って避難生活を検証する。

同館指定管理者である豊橋障害者（児）団体連合協議会（山下徹会長）主催、豊橋市共催で、今年で5回目。今年延べ約250人が参加。山下会長が「皆と助け合いながらいろいろな体験をして、身を守る方法を身につけて」とあいさつした。

後、東日本大震災のドキュメンタリー映画「逃げ遅れる人々」を上映した。福島を中心に被災した障害者や関係者の証言をまとめたもので、参加者は混乱時の障害者の状況や、

「あまり機会のない夜の訓練を体験してもらうとともに、震災にならば」と本田栄子事務局長は話す。（田中博子）

は、預金者が多額の現金を引き出す際、詐欺防止の観点から用途を確



認しているが、女性は男から振り込め詐欺と

出せなくなる」と指示されたのに従い「自宅を使う」と説明していた。



映画上映など行った避難所体験＝さくらピアで

↑ 2013年9月29日 東愛知新聞

 さくらピア (豊橋市障害者福社会館) 

〒440-0812 豊橋市東新町15番地

TEL : (0532) 53-3153

FAX : (0532) 53-3200

E-mail : sakurapia@hosyoren.jp

HP : <http://hosyoren.jp/sakurapia/> (毎週金曜日更新)

会館時間 : 午前9時~午後9時

休館日 : 月曜日と祝日 (月曜日が祝日の場合は翌日)